

石川

ISHIKAWA PREFECTURAL
MUSEUM OF HISTORY

令和7年度
春季特別展

れきはく

No. 150
2025.4.17



歴史を つなぐ

石川を語るれきはくコレクション

CONNECTING HISTORY

Our Museum's Collection
Telling the Story of Ishikawa Prefecture

令和7年 4.26 ≫ 6.8 日



- ① 白山行人札
文明17年 (1485)
- ② 鉄朱漆叩塗頭形兜
江戸時代
- ③ 花嫁暖簾 水野博作
昭和43年 (1968) 頃
- ④ 唐子引台 大野井吉作
江戸時代末期 (19世紀)
- ⑤ 阿弥陀如来立像
江戸時代 (18世紀後半～19世紀)

近年、歴博に新たに仲間入りした
新収蔵品を初公開し、館蔵資料
と関連づけて多彩なテーマで紹介
します。博物館が保存・継承する
資料は、一つひとつが歴史を語る
大切なモノであり、それらをつ
なぎ合わせることで、より深く、
豊かな地域像を描くことができ
ます。本展を通して、石川の歴史
を語る資料の魅力と、地域の文化
財を次代につなぐ博物館の使命
を広く発信します。

歴史をつなぐ

石川を語るれきはくコレクション

CONNECTING HISTORY

Our Museum's Collection
Telling the Story of Ishikawa Prefecture

令和7年度
春季特別展

令和7年
4.26(土) 6.8(日)
9:00-17:00

展示室への入室は16:30まで

会期中無休

会場
石川県立歴史博物館
特別展示室・企画展示室

観覧料
一般800円(640円)
大学生・専門学校生640円(510円)
※高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金
65歳以上の方は団体料金

特別展の関連イベントについては
裏表紙の「催し物案内」をご覧ください

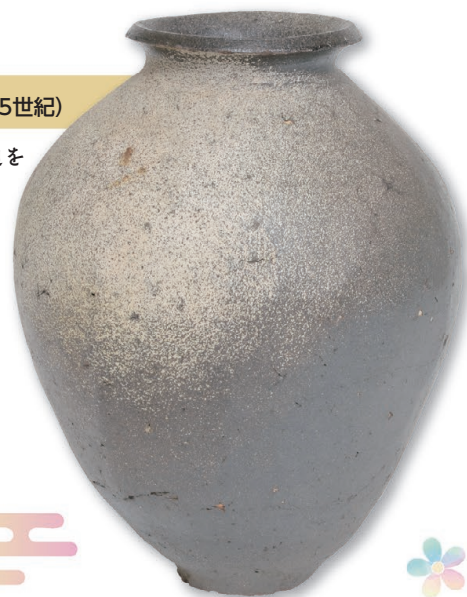
序章

歴博でつながるコレクション

珠洲焼の変革

すずけんまつぼ
珠洲研磨壺 室町時代(15世紀)

15世紀に入り日本海側で流通を
拡大した越前焼などの製品を
意識し、表面を研磨して叩き
目を消し、平滑に仕上げた
珠洲焼の壺。



第1章

藩を語る



大野弁吉と 加賀藩の科学技術

からこひきだい
唐子引台 江戸時代末期(19世紀)

ゼンマイ仕掛けのからくり細工で、
車上の台に盆を載せると車が前進し、
車上の唐子人形が軍配と首を振る
仕掛けになっている。

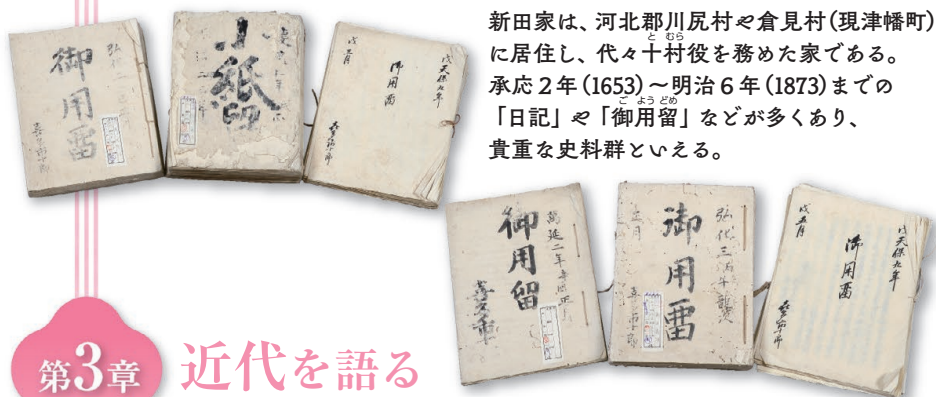
19世紀に活躍した発明家・
大野弁吉の作と伝わる。

第2章

地域を語る

十村新田家の地域支配

とむらにつ たけもんじょ
十村新田家文書 江戸～昭和時代(17～20世紀)



新田家は、河北郡川尻村や倉見村(現津幡町)
に居住し、代々十村役を務めた家である。
承応2年(1653)～明治6年(1873)までの
「日記」や「御用留」などが多くあり、
貴重な史料群といえる。

第3章

近代を語る

日本刀とナショナリズム

ぐんどう
軍刀 昭和時代前期(20世紀)

日本陸軍の軍刀。陸軍創設以来西洋風のサーベル型の拵えであったが、
昭和9年(1934)からは日本刀型の拵えへと変化した。



第4章 技を語る



加賀藩御用絵師の命脈

さ さ き せん けい つる かめ ず
佐々木泉景筆 鶴に亀図
天保12年(1841)

大聖寺出身の加賀藩御用絵師・
佐々木泉景(1773~1848)の作。
水辺の景に群鶴と亀を描く吉祥画である。

新収蔵資料
(受入順、敬称略)

終章 語りだすコレクション —新しいテーマの可能性—

浄土真宗と お内仏

あ み だ にょらいりゅうぞう
阿弥陀如来立像
江戸時代(18世紀後半~19世紀)

金沢市の浄土真宗門徒宅に
伝わったお内仏(仏壇)本尊
としての木造阿弥陀如来像。



資料名	点数	寄贈者
太刀 銘[表]加州藤田國靖 [裏]昭和二十年六月	1	濱中 明子
福富家文書	20	個人
田地割圖箱	2	良川区
印章・袋	1	〃
村旗	2	〃
村役人羽織	1	〃
鹿島郡鑑札	2	〃
珠洲刻文叩壺	1	端名 秀雄
珠洲叩壺	1	〃
紀尾井町事件裁判記録	1	横田 憲
前田綱紀書状(野村與三兵衛宛)	1	(購入)
今枝直恒書状	1	(購入)
地球儀	1	(購入)
大聖寺藩士日記	1	(購入)
本阿弥光悦書状(中川宗半宛)	1	升村 丞
松竹梅鶴亀文様打掛	1	岩地 正江
松下家文書	53	松下龍太郎
衣装筆筒	1	〃
千人針	1	〃
唐子引台	1	大友 恵子
写真機	1	〃
反射望遠鏡	1	〃
十村新田家文書	2,569	新田 義孝
大正九年兵 近衛師団 除隊記念写真帖	1	山岸 脩郎
近江源六軍隊関係アルバム	1	〃
村井家中竹下文書	102	佐野 悦子
富田家中村田家文書	31	向川 紀久
珠洲研磨壺	1	(購入)
川崎家文書	62	川崎 弘子
銀製写生山水花瓶	1	〃
九谷赤絵金彩山水図煎茶道具	1	〃
入榮家文書	109	入榮 隆純
東本願寺御印書	1	〃
十字名号(帰命尽十方無碍光如来)及び 九字名号(南無不可思議光如来)	2	〃
狩野墨川盈信筆 大黒唐子遊戯図屏風	1	〃
美人風俗図屏風	1	〃
狩野周嘗親信筆 旭日に鶴図	1	〃
高村右暁筆 雪中鹿図	1	〃
玄々斎精中筆 和歌「一井庵にて連會湯のとき戯に」	1	〃
阿弥陀如来立像	1	〃
佐々木泉景筆 鶴に亀図	1	小鍛冶武久
満州事変・第一次上海事変の新聞号外	67	個人
近代女子教育関係資料	17	法村 龍夫
手帳	1	〃
掛軸「世界大戦記念地図」	1	〃
鉄朱漆叩塗頭形兜	1	大江 久代
日清戦役日誌	1	寺口 武志
日露戦役日誌	1	〃
川崎常三郎・菊子画像	2	川崎 弘子
臨時株主総会招集通知書	1	〃
大鵬寸蟲録記	2	(購入)
水野博友禅染下絵	654	水野 高春
水野博友禅染見本	8	〃
水野博スケッチブック	7	〃
水野博印章	5	〃
水野博婚礼用袱紗	4	〃
水野博花嫁暖簾	1	〃
素谷・升村家資料	109	升村 丞
素谷商店 看板	1	〃
素谷家 茶室扁額	1	〃
素谷商店 算盤	1	〃
江間万里筆 詩画幅	1	〃
冷泉為廣筆 短冊幅	1	〃
百人一首貼対屏風	1	〃
山田敬中筆 春秋山水図屏風	1	〃
素谷龍溪・佐々木泉景下絵・粉本資料	92	〃
素谷家 釘隠	2	〃
素谷家 引手	4	〃
荒屋清次郎日記・写真アルバム	27	(購入)
山砲兵第九連隊 支那事変記念写真帖	1	個人
西谷家文書	31	西谷 幸枝
軍刀	1	〃
将校用行李	1	〃
双眼鏡	1	〃
雑囊	1	〃
将校用略刀帯	1	〃
印鑑	5	〃
日本赤十字社社員章	1	〃
石川県体育協会記章	1	〃
勲章吊金具	1	〃
昭和六年乃至九年事変従軍記章	1	〃
襟章	1	〃
略綬	2	〃
支那事変従軍記章	1	〃
勲七等瑞宝章	1	〃
『聖戦美談 興亜乃光』	1	〃
珠洲郡内山村田地割圖等文書	3	個人
森岡家資料	14	森岡 高
吉本弘一関係写真アルバム	6	吉本 澄代
絵葉書帖	1	〃
遇番懸章	1	〃
吉本弘一関係写真	28	〃
吉田家仏壇関係資料	8	吉田 裕美
剣	1	個人
木製白山行人札	2	中宮区
浮彫像断片	1	〃
種子彫刻片(キリーク)	1	〃
版木	2	〃

※一部、特別展に出陳しない資料を含みます。

資料 紹介

新収蔵品から見えてくる検討課題 — 近代金沢における茶道の動向と数寄者の活躍

◆ 学芸主任 中村 真菜美

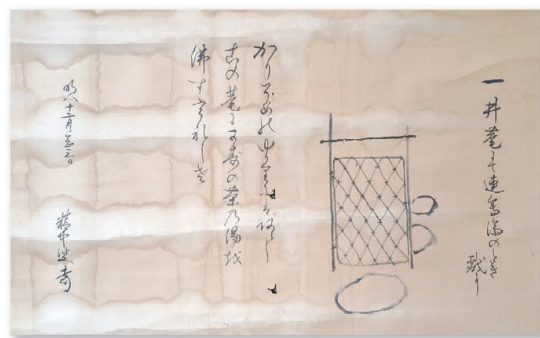
春季特別展では、当館の前身にあたる石川県立郷土資料館が昭和43年（1968）に開館して以来、半世紀を超えて築き上げてきた豊かなコレクションを近年収集した資料と組み合わせることで、当館が「石川」という地域を語る上でどのようなテーマを蓄積してきたのか、そして今後どのような切り口で新しい地域史を描こうとしているのかを示すことを目指している。そこで筆者は本展における検討課題として、明治時代以降の当地における茶道の動向と近代数寄者の活躍を取り上げることとした。

令和6年度の新収蔵資料には、このテーマに関わる好資料が多数含まれている。まずは裏千家11世・玄々斎精中宗室（1810～77）による和歌幅を挙げる【図1】。「一井庵にて連會湯のとき戯に」と題して、「かりそめの ゆかりにはあらじ この庵にかずの茶の湯を 沸すうれしさ」と詠む。明治8年（1875）10月25日から約90日間、玄々斎は金沢に逗留しており、12月23日より門人・湯川宗俊の茶室・一井庵にて連日、返礼の茶会を催した。本資料はその折に制作されたと考えられ、幕藩体制の終焉により社会の価値観が一変しつつあった当時の状況を踏まえれば、茶道文化の拠点としての金沢の地を重視し、その縁を今一度堅固なものにしようとする家元の強い思いが感じられる。

こうした宗家側の働きかけも実を結び、明治以降の金沢の茶界は財界人を中心とする近代数寄者の台頭とともに活気を帯びた。茶の湯を趣味とし、名物の蒐集を熱心に行うことで、広範な人脈を築いていった彼らの存在は、石川県の近代史を編む上で看過できないが、当館では十分な資料収集がなされていなかった。そのため、今回収蔵が叶った、金沢の近代数寄者・素谷篤爾（1880～1963、号は知足庵、龍溪）にまつわる資料群は、今後の調査研究に弾みをつけるものと言える。篤爾は旧上今町（現在の尾張町）にて洋傘商・素谷商店（明治15年創業）を営んだ人物で【図2】、明治45年5月、当代一の数寄者と名高かった元勲・井上馨（1835～1915）の来沢時に成巽閣にて自らの蔵品を展覧、昭和3年には茶道隆茗会の発足人、同7年には成巽閣茶会の席主を務めるなど、茶都・金沢の重鎮として戦後に至るまで強い影響力を誇った。ご寄贈いただいた資料群は、篤爾自ら編んだ蔵品目録や茶道関係の研究ノート、茶会の招待状を中心とする書簡類に加え、石川県工業学校で教鞭をとった日本画家・山田敬中（1868～1934）による「春秋山水図屏風」【図3】をはじめとする蒐

集品のほか、加賀藩御用絵師の末裔にあたる佐々木泉溪（1870～1945）に師事した折の粉本・下絵類、事業関係の書類など幅広く、金沢を拠点とした近代数寄者の活動実態や、コミュニティ形成のあり方を具体的に読み解くことができる点で重要である。

春季特別展はこうした新収蔵資料を中心に、学芸員が新たな研究視座を提示するチャレンジングな企画となる予定である。リニューアルオープンした平成27年（2015）から10年を迎える今年、当館のこれまでとこれからを考える機会になれば幸いである。



【図1】裏千家11代・玄々斎精中宗室筆
和歌幅「一井庵にて連會湯のとき戯に」
明治8年12月23日、入榮隆純氏寄贈



【図2】素谷商店年賀状 個人蔵
大正時代の素谷商店の様子



【図3】山田敬中筆「春秋山水図屏風」(左隻)
明治時代後期、升村丞氏寄贈

特集

令和 6 年

Vol.5

能登半島地震によせて

石川県能登半島を中心に甚大な被害をもたらした令和6年能登半島地震から1年、さらに奥能登豪雨から半年以上経過しました。被災地の復旧・復興は道半ばですが、生活やなりわいの再建に向けた様々な取り組みが行われています。文化財のレスキューも継続的に行われていますが、同時に被災資料をいかに保存・継承していくのかといった長期的な課題にも向き合わなければなりません。

令和7年度の『石川れきはく』では前年度に引き続き「特集 令和6年能登半島地震によせて」を連載します。今号では、令和6年能登半島地震を契機に発足し、石川県内に残る歴史資料等の保全・活用を進める活動に取り組む「いしかわ歴史資料保全ネットワーク」の事務局長・上田長生氏による特別寄稿をお届けします。合わせて能登地域に伝わる文化財について、その歴史的意義や、震災をきっかけとして当館学芸員が考えたことを発信します。

能登半島の文化財レスキューと資料整理がもつ意味

いしかわ歴史資料保全ネットワーク 事務局長 上田 長生

昨年1月1日の能登半島地震の発生以降、私は県内で地域の歴史を学ぶ者として何をしなければならぬのか、何ができるだろうかと考え続けてきました。その中で、金沢学院大学の本多俊彦さんとともに、県内市町の若い文化財担当者や学芸員の方々に呼びかけ、同3月1日にいしかわ歴史資料保全ネットワーク（略称：いしかわ史料ネット）を立ち上げました。石川県立歴史博物館の若手学芸員の皆さんも積極的に活動して下さっています。

いしかわ史料ネットは、文化財防災センターが進めている文化財レスキュー事業や被災資料の整理に、石川県に縁のある多様な方々が広く関わる窓口となっています。歴史に限らない多分野の学芸員や教員・大学院生・学生、そして石川県出身の歴史学研究者もレスキューや資料整理に参加されています。皆さんが「被災地のために何かしたい」という想いに突き動かされているのです。

このように、石川県に縁のある多くの方々が文化財レスキューや資料整理に関わることは、様々な面で今後に繋がっていくのではないかと考えています。私自身を含め、レスキューや被災資料への対応の経験がなかった県内の関係者が、文化財防災センターや全国の史料ネットから多くの知見を学んでいます。特に、若手の文化財担当者・学芸員の方々が多くの経験を積み、相互の協力関係を一層深めていることは、今後、石川県の文化財を保全していく上で非常に重要な基盤になるはずです。

被災資料の整理・返却は10年以上かかる長期的な取り組みにならざるを得ないでしょう。整理・返却をやり遂げ、（考えたくはないですが）次の災害に備えるために、一步一步活動を進めていかなければならないと考えています。

レスキューの際、資料所蔵者が「ご先祖から引き継いできたものを助け出してもらって、ありがたい」と仰いました。いしかわ史料ネットの活動を通じて、歴史資料はそのお家・地域やそこで紡がれた文化遺産そのものであるということを学び直しています。地域の皆様に学びつつ、能登の豊かな歴史や文化を伝える歴史資料の一つでも多く後世に引き継げるよう、今後也有着実に取り組んでいきたいと思っています。

こうした被災資料のレスキューや整理に、多くの学生・大学院生が参加してくれていることの意味も大きいと考えています。卒業・修了後に、歴史・文化財に直接関わる仕事に就く人は限られています。しかし、レスキューや資料整理に参加することで、災害によっていかに文化財が失われてしまうのか、どうすれば保全できるのか、そして、被災資料を保全することが地域の歴史・文化を継承する上でいかに重要なのかを学ぶことになるでしょう。社会の中でそうした理解を持つ人が増えることは、災害に強い社会、歴史や文化財を含み込んだ豊かな社会を創り出す一助になると考えています。

令和6年能登半島地震により、能登半島を中心とした石川県内各地で多数の文化財が甚大な被害を受けました。一方で地震をきっかけに既知の文化財が再注目されたり、今まで知られていなかった文化財の存在が明らかになり、それらを守り伝えることの大切さを考える機会となりました。今年度の「特集 令和6年能登半島地震によせて」では、被災した文化財、被災地よりレスキューされた文化財をテーマとし、それらが伝える地域の歴史や文化について紹介します。

白く干上がる 以前、以後

学芸主幹 大門 哲

近世・近代の旅人が等しく「絶景」と称えた能登の風景が、奇岩怪石からなる磯である。その風景は祭り歌にも盛り込まれた。能登外浦のキリコ祭りの囃子にこんな詞がみえる。「大泊そや名所なとこ、沖にクルシマ、地にオジマ」。磯の風景美は住民の誇りでもあった。

令和6年能登地震は磯の風景を激変させた。波で黒々とぬれそぼっているはずの岩が白く干上がっている。事態は風景の問題だけではない。能登の暮らしの特質といえる磯の生活文化を崩壊させてしまった。

輪島市門前町赤神に生まれ、同町腰細に嫁ぎ、60年ほど暮らす女性は、小さいころから小遣い稼ぎのために磯に出たという。磯は海の田んぼだと説く。毎年恵みをもたらしてくれることへの謝辞であり、またかつて農村に出向きノリを米と交換してきた歴史の喩えでもある。

磯と人の濃密な関係がわかるのは地名である。磯の呼び名はざっくりとした区分名と小地名の二層からなる。まずは区分名の若干例をしめす。門前町鹿磯では、水中から出ている岩場をカミハゼとシモハゼ、水中に没している岩場をセノベと呼びわけた。また同町深見では隣の鹿磯との境界に位置するメーマと、湾をはさみ反対側になるヒラトコに二分し、暗礁をセと呼んだ。

つぎに小地名である。門前町腰細では、漁獲物にちなむサザエジマ、動物の観察経験にちなむカゴメ（カモメ）シマ、トドシマといった27もの地名を伝える。トドとはアザラシの能登の通称である。戦後まもなくまでその岩場がアザラシの休憩場所となっていたことに由来する。

磯はさまざまな恵みをもたらした。門前町大泊で聴取した産物（標準和名省略）は以下のとおり。海藻のイワノリ・ワカメ・インノケアオサ・ホンアオサ・テングサ・イギス・ハバ・ツユモヅク・ホンモヅク・イシモヅク、魚介類のハチメ、アゴ、ゾウジン、ススキ、カワダイ、ホンダイ、サンザエワリ、シジュウ、アブラメ、サザエ、アワビ、シタダメ、ヅメ、エーガイ、水タコ、マダコ。

これらのうち最大の収入源となったのがイワノリである。利益が不平等にならないように、採取にはどの集落も厳格なルールをもつ。ルールは、日を決め住人が一斉に採る村仕事タイプから、勤め人の増加で作業日の調整が難しくなったため、磯を分割し希望者へ入札するタイプに移行しつつある。

震災から1年、陸化した磯は震災遺構・絶景海道といった新たな価値付与が模索されつつあるが、肝心の磯と住人の関係はどうなったのか。大泊の住人に聞けば、今年の1月中旬、海の際の岩場にノリが僅かだが繁殖したので、ムラ仕事で採取に出たという。磯がもつコミュニティー／生活の価値を取り戻そうとする動きが始まっているのである。



地震で隆起したノリ畑 大泊 2025年2月

外浦地方では大正以降、ノリ育成のため
磯をコンクリート平面に造成した。

レスキュー文化財・ 陸軍中野学校同窓会 関係資料から わかること

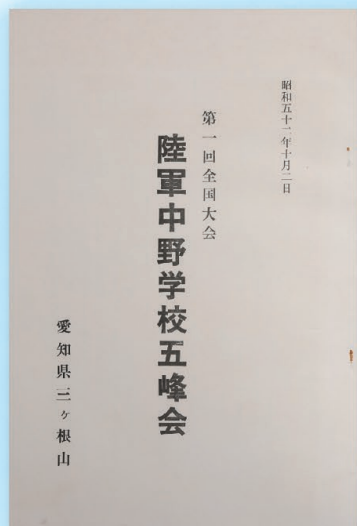
学芸員 齋藤 仁志

この資料は、志賀町の個人宅から救出されたもので、陸軍中野学校出身者の同窓会の1つである「五峰会」の『全国大会記念誌』である。

陸軍中野学校は、昭和15年（1940）に開校した日本陸軍の教育機関で、「秘密工作員」や「ゲリラ戦士」の養成を目的としていた。同校は、敗戦に伴って昭和20年（1945）に閉校するまで、2,300名余りの生徒を送り出したという。

『全国大会記念誌』によれば、「五峰会」は如上の中野学校出身者のうち、とくに5期生の人々の同窓会であった。会設立のきっかけは、昭和51年（1976）度の「全国大会」——おそらくは中野学校全体の同窓会である「中野校友会」の全国大会——において、5期生独自の同窓会設立の話が関係者の間から出てきたことであった。その後、数回の会合を経て、昭和52年（1977）に愛知県において「五峰会」の第1回全国大会が開かれた。

本資料はその大会に関する小冊子であり、同窓生と再会したことへの喜びが随所にあふれている。ただし、この小冊子は一般に「同窓会」と聞いて想像されるような、旧友との再会の「喜び」のみで構成されたものではない。たとえば、冊子の冒頭には東条英機ら「A級戦犯」の慰霊祭に関する記事が掲載されており、「かつては戦争に参加し而も特殊任務を受けた我々五峰会の皆さんもこの戦争犯罪者として処刑された各氏の立たされた苦しみ、戦後何回も米軍情報部に呼出しを受けた我々は、他人事とは思えない」と記されている。このような記述は、「戦後」における彼らの複雑な立ち位置を如実に示している。



陸軍中野学校五峰会
第一回全国大会記念誌

当館の主な文化財レスキュー活動状況

【令和7年1月～3月】

期 日	曜日	活動内容
1月14日	火	輪島市 美術館 文化財防災センター（以下、文防）レスキュー参加
1月15日	水	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
1月16日	木	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
1月17日	金	輪島市 美術館 文防レスキュー参加
1月22日	水	中能登町 個人宅 現地調査
1月23日	木	輪島市 個人宅 レスキュー
1月24日	金	穴水町 寺院 現地調査
1月25日	土	いしかわ歴史資料保全ネットワーク（以下、いしかわ史料ネット）の協力による被災古文書の整理作業
1月30日	木	野々市市 個人宅 現地調査（輪島市からの避難資料）
2月 3日	月	輪島市 個人宅 現地調査
2月 9日	日	いしかわ史料ネット主催 下張り文書はがしワークショップ（いしかわ史料ネット会員対象）
2月21日	金	輪島市 一時保管施設 資料調査
2月23日	日	いしかわ史料ネットの協力による被災古文書の整理作業
2月25日	火	輪島市 個人宅 文防レスキュー参加
2月26日	水	輪島市 個人宅 文防レスキュー参加
2月28日	金	中能登町 一時保管施設 資料調査参加
3月10日	月	七尾市 個人宅 文防レスキュー参加
3月11日	火	七尾市 個人宅 文防レスキュー参加
3月12日	水	七尾市 個人宅 文防レスキュー参加
3月18日	火	金沢市 個人宅 現地調査（輪島市からの避難資料） 宝達志水町 個人宅 一時保管資料返却
3月28日	金	金沢市 個人宅 レスキュー（輪島市からの避難資料）

文化財レスキューとは

地震で被害を受けた、もしくは倒壊しそうな建物に残された「文化財」の救出避難・応急措置・一時保管を実施する事業です。

石川県では国の文化財防災センターと連携して学芸員らによるレスキュー隊を編成しており、当館も県立博物館として活動にあたっています。

なお、ここで言う「文化財」とは、地域の歴史を伝える有形文化財や有形民俗文化財を指しますが、指定の有無は問いません。

はたして、戦後日本社会は軍人たちの「声」にどれだけ耳を傾けてきただろうか。前述したような、戦後の価値観とは大きく異なる「想い」を読むと、彼らが率直な心情を吐露できたのは同窓生（戦友）との間だけではなかったかとも思えてくる。もちろん、「同窓生」や「戦友」といえども、「戦中」や「戦後」への想いは個々人でそれぞれ違ったであろう。しかし、その相違を前提としたうえで、「五峰会」のような軍人たちの同窓会（戦友会）の資料の収集と分析は、彼らの「声」を知るために必須なものであるといえよう。

催し物 案内 Information

展示解説や各種講座などの情報をお知らせします。
※各種催し物の詳細については、当館ホームページにてお知らせします。

4月 休館日：4/23(水)～4/25(金)

26日(土) 「歴史をつなぐー石川を語るれきはくコレクションー」
ワークショップ 11:00～、14:00～ 要覧覧会チケット/申込不要
「からくり人形を動かしてみよう！」

27日(日) 「歴史をつなぐー石川を語るれきはくコレクションー」展示解説
13:30～14:30 講師：当館学芸員 要覧覧会チケット/申込不要

5月 休館日：なし

3日(土・祝) 「歴史をつなぐー石川を語るれきはくコレクションー」
ワークショップ 11:00～、14:00～ 要覧覧会チケット/申込不要
「からくり人形を動かしてみよう！」

15日(木) 「歴史をつなぐー石川を語るれきはくコレクションー」展示解説
10:30～11:30 講師：当館学芸員 要覧覧会チケット/申込不要

17日(土) 「歴史をつなぐー石川を語るれきはくコレクションー」
ワークショップ 11:00～、14:00～ 要覧覧会チケット/申込不要
「からくり人形を動かしてみよう！」

5月 休館日：なし

18日(日) 「歴史をつなぐー石川を語るれきはくコレクションー」
ワークショップ 13:30～15:30 参加無料/要申込
「レトロ写真をつくってみよう！」
講師：吉岡 由哲氏(東京国立博物館学芸研究部文化財写真技師)

31日(土) 「歴史をつなぐー石川を語るれきはくコレクションー」
記念講演会 13:30～15:00 聴講無料/要申込
「大野弁吉と加賀藩の技術文化」
講師：本康 宏史氏(金沢星稜大学経済学部特任教授)

6月 休館日：6/9(月)～6/10(火)

1日(日) 「歴史をつなぐー石川を語るれきはくコレクションー」
ワークショップ 11:00～、14:00～ 要覧覧会チケット/申込不要
「からくり人形を動かしてみよう！」

28日(土) れきはくゼミナール 聴講無料/申込不要
13:30～15:00
「金沢の盆とキリコ・灯籠」講師：大井 理恵(当館学芸課長)

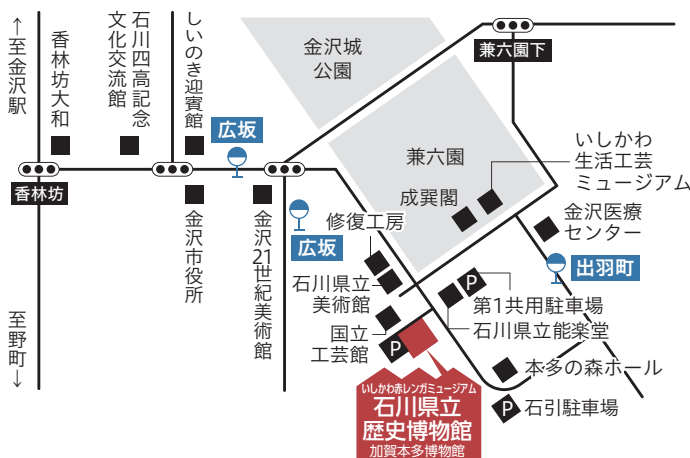
次回 展覧会 のお知らせ

夏季特別展 未来へつなぐ ー 能登半島地震とレスキュー文化財 ー

令和7年(2025)
7/26(土)～8/31(日)

博物館の災害時の使命として、被災した文化財の救出・継承があります。令和6年能登半島地震の発災以来、文化財レスキュー事業により、多くの文化財が救出されました。本展覧会では、能登半島地震および奥能登豪雨の文化財レスキューにおいて、当館が救出に関わった資料を初めて公開します。被災文化財から読み解くことができる地域の歴史や文化を紹介し、その継承について考える契機とします。また、現在も続く文化財レスキューの活動記録とあわせて、能登を中心とする被災地の状況や復旧に向けた動きなどを紹介し、この大災害の記録と記憶を未来へつなぐ第一歩とします。

▲ 珠州市の網元の家に伝わった資料群



いしかわ赤レンガミュージアム

石川県立歴史博物館
ISHIKAWA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-1
TEL: 076-262-3236 FAX: 076-262-1836
E-mail: rekihaku@pref.ishikawa.lg.jp
https://ishikawa-rekihaku.jp/



KITEN SCHOOL

憧れの在宅ワークもできちゃう♪

子育てママ・パパも

デザインで在宅ワーク♪

Try it!

デザインスクールの無料体験をお試いただけます

オンライン講座あり

自宅で学べるデザインスクール

デザインを学んでスキルアップ・副業・転職・独立・趣味等可能性を広げよう!!

大阪府高槻市城北町1丁目14-17-501 TEL.072-668-3275 運営/株式会社ウィット